

残そう、自然の宝石箱・のりくら

くらがね通信

No.17 (夏号)

乗鞍岳の自然を考える会

平成16年7月30日発行

ライチョウ会議が開催されます

8月22・23日に高山市役所市民ホールにて第5回ライチョウ会議が開催されます。

ライチョウ会議では国内のライチョウに関係した研究者、自然保護団体、行政関係者、山小屋関係者等が一同に会し、ライチョウの将来を考えていこうと、研究発表、保護・調査活動報告、意見交換講演等が行なわれます。今回は高山市での開催という事で乗鞍岳のライチョウについての時間を多くとっています。今大会の開催には日本野鳥の会岐阜県支部と当会の運営委員が担当します。

一般の方も参加できますので、多くの方のご来場をお待ちしています。(内容は次ページ)

「わたしの乗鞍＝絵画・写真展」の作品募集

高山市はじめ、周辺の町村から望める乗鞍岳は四季を通じて美しい姿を見せてくれ、我々を癒してくれています。こんな贅沢な眺望が得られるところは他の地方にはないと思われまふ。当会では、皆さんのとっておきの展望スポットから描いた、あるいは撮った作品展「わたしの乗鞍＝絵画・写真展」を下記のとおり企画いたしました。

乗鞍岳の展望のほか、乗鞍山中での景色や動植物の写真・絵画、あるいは乗鞍での思い出のスナップ写真・絵手紙等何でも結構です。古い写真でもかまいません。多くの応募をお待ちしています。

応募要項

- 《応募資格》 年齢は問いません。幼稚園児、小中学生なども歓迎します。
- 《作品内容》 乗鞍に関係した写真・絵画など(題名と展望場所などコメントを添付ください)
- 《サイズ》 自由です。(額縁のない方は事務局にて準備します)
- 《応募締切》 16年10月20日
- 《展示場所》 たかはし街角ギャラリー(高山市西之一色町三丁目・高橋建設内)
- 《展示期間》 16年11月1日～30日(展示数に限りがありますので、多い場合は入れ替えをします)
- 《作品搬入・搬出》 飯田法律事務所(〒506-0055 高山市上岡本町4-218-3 Tel.0577-32-7206)
土日を除く平日10:00～16:00の間をお願いします。
なお、搬出は12月6日～10日の間をお願いします。
- 《審査・選考》 乗鞍に親しんでもらう趣旨ですので審査・選考による順位はつけませんが、参加していただいた方に記念品を差し上げます。
- 《お問合せ》 18:00～21:00の間に (0577) 34-6321 木下まで

第5回 ライチョウ会議

開催日：2004年8月22日(日)～23日(月) 会場：高山市市民ホール(岐阜県高山市市役所内)

主催：第5回ライチョウ会議大会実行委員会

協賛：(予定) 日本野鳥の会岐阜県支部・乗鞍岳の自然を考える会・長野県大町山岳博物館・飛騨山岳会・NPO 法人ライチョウ保護研究会・山岳環境研究所・宝酒造・濃飛乗合自動車株式会社

後援：(予定) 環境省・岐阜県・長野県・富山県・新潟県・山梨県・高山市・丹生川村

(財) 日本野鳥の会・(財) 日本自然保護協会・(財) 世界自然保護基金日本委員会

【1日目】

- 12:30-13:00 〈受付〉
- 13:00-13:10 開会の辞
- 13:10-15:30 乗鞍岳のライチョウ —調査の歴史と現状報告—
- ・ 乗鞍岳のライチョウ調査の歴史
 - ・ 乗鞍岳一帯のライチョウ調査報告
 - ・ 乗鞍岳の植生環境について
 - ・ ライチョウ保護への取り組み
 - ・ 乗鞍岳一帯の自然公園管理の問題点
- 15:40-17:30 各地の調査・研究・保護活動 報告
- 18:30-20:30 懇親会 「ひだホテルプラザ」



【2日目】

- 08:40-09:10 ライチョウ会議総会
- 09:10-11:40 全体会議「ライチョウは生き残れるか? —地球温暖化とライチョウ—」
- ・ ライチョウのおかれた現状
- 【基調講演】地球温暖化と自然環境への影響
- 【パネルディスカッション】
- 11:40-11:50 閉会の辞

*エクスカーション(乗鞍岳) 12:00(会場発) - 17:00(高山駅)

乗鞍スカイラインで乗鞍畳平まで行き、ライチョウの生息地を視察してもらいます。(予約終了)

※自由な時間に参加できます。参加無料(資料代500円) ※懇親会に参加の場合5,000円が必要です

ライチョウ会議は平成12年に長野県大町市の山岳博物館50周年を記念して大町市が発起人として発足した組織で、毎年1回会合を開いてきました。会合では研究発表、保護・調査活動報告、意見交換、一般市民向けの講演会などをおしてライチョウの保護についての啓発活動を行なっています。

第1回・2回は大町市、第3回は富山県立山室堂、第4回は東京都東京農大で開催されました。(第1回の内容はくらがね通信 No2にて掲載) また、平成15年8月には具体的な活動を行なうためのNPO 法人ライチョウ保護研究会が設立されました。

第5回にあたる今年は岐阜県高山市で行なうことになり、当会も設立以来乗鞍のライチョウ保護活動をしていますので、この会議に協賛する事を決めました。

《ライチョウ会議》

ライチョウ会議会長	中村 浩志	(信州大学教授)
ライチョウ会議事務局長	清水 博文	(大町山岳博物館)
第5回ライチョウ会議実行委員長	大塚 之稔	(日本野鳥の会岐阜県支部長・当会会員)

事務局 長野県大町山岳博物館 長野県大町市大字大町 8056-1

《母校の歌・2》

丹生川村立丹生川中学校校歌

作詞 平光善久

作曲 兼田敏

一、そそり立つ 乗鞍岳の

山の香の みなぎるところ

大いなる 恵みを受けて

たくましく 伸びゆくいのち

清く明るく われらは育つ

丹生川 丹生川中学校

二、水清き 小八賀川と

荒城川 二つの流れ

さかのぼる 古き歴史を

受け継ぎて 未来を指す

つねにきびしく われらは学ぶ

丹生川 丹生川中学校

三、さわやかな 御崎が丘に

眉あげて 見上げる彼方

湧き上がる 蛍の光に

豊かなる 理想をかかげ

強く正しく われらは進む

丹生川 丹生川中学校

昭和50年3月5日制定

丹生川中学校は昭和46年丹生川村内の丹生川、白井、旗鉾、三之瀬、折敷地、国見の6中校が統合して創立された。校歌は昭和50年3月5日制定。各段最後の「丹生川 丹生川中学校」は「にふかわ、にゅうかわ中学校」と発声する。作曲の兼田先生は県内外の、多くの学校の校歌を作曲されている。

◎ 丹生川村立丹生川中学校 岐阜県大野郡丹生川村町方1500番地

<http://www.h-b.co.jp/nyuchu/>

高山市立松倉中学校校歌

作詞 野尻仁太郎

作曲 小瀬不二三

一、仰げば高き のりくらに

千秋無垢の 雪白く

伏せば名だたる 宮川の

久遠の流れ 水清し

ああ飛騨高原の 大自然

二、その高嶺をば 流れをば

朝夕べの 鑑とし

知徳を磨き 体を練り

新しき世に 先駆けて

いざうち樹てん 新文化

三、夕陽にはゆる 東山

鐘の響きに いやまして

撞くや平和の 民の鐘

響け世界の 果てにまで

使命に燃ゆる 松倉中

昭和15年11月制定

松倉中学校は昭和22年学制改革により新制中学校、第二中学校として発足。昭和36年松倉中学校に改名する。校歌は昭和23年11月、当時の校長先生が作詞、教諭が作曲した。昭和54年正式に校歌に制定。当時は四番まで歌詞があったがそのうちの三番が消えて四番が現在の三番になっている。

※当時の三番の歌詞

「飛騨の匠の 秀でたる 技をしのべば いと遠く

我が故郷の 高山に 操も高く澁刺(はつらつ)と 真理に進む 我が二中」

◎ 高山市立松倉中学校 岐阜県高山市上岡本町4-119

<http://www.city.takayama.gifu.jp/ga/matsukura-j/index.htm>

乗鞍展望お勧めスポット

その3 高根村御岳山麓



御岳山麓、高根村日和田チャオ御岳リゾートの駐車場から乗鞍岳を眺望。標高1,800mの地点で、乗鞍方面はさえぎる物がないので天気の良い日は西に長く延びる稜線がめられる。日和田から小坂町濁河温泉にかけて高地トレーニング施設の整備が御岳山麓の貴重な大自然が失われていくのが残念である。

この地域に高地トレーニングのシンボルとなるランニングコースが整備中で、写真の手前にある石碑にはシドニーオリンピック女子マラソン金メダル走者・高橋尚子さん(岐阜県出身)を讃えて、またこの地が高地トレーニングのメッカにとの願いを込めて『飛騨御嶽尚子ボルダールoad・平成十四年十月三十日』と刻まれているが、これを見た観光客が言っていた。「御嶽尚子？誰や？」

御岳と乗鞍の間を毎秋、東から西へと多くの渡り鳥が渡っていく。大型のワシ・タカ類が群れで渡っていく様は圧巻である。一日で1,500羽以上渡ることもある。

新入会員紹介 (前号以降・敬称略)

平成16年7月末会員数 一般171名・6団体

篠塚 美穂子(高山市)

■ 会員を募集しています！ 年会費 = 個人 2,000円 家族 3,000円 団体 5,000円
あなたの知人、友人に
入会をおすすめください

- ・ 郵便振替 00800-8-129365
- ・ 振込先 乗鞍岳の自然を考える会

くらがね通信 第17号 (夏号)

平成16年7月30日発行

発行者 乗鞍岳の自然を考える会

〒506-0055

岐阜県高山市上岡本町4-218-3 飯田 洋

TEL 0577-32-7206 ・ FAX 0577-32-7207

編集室では皆さんからの原稿、ご意見等をお待ちしています。

■ 編集責任者 : 宝田 延彦 E-mail : nobu1995@peach.ocn.ne.jp TEL(FAX 兼) 0577-34-1287

■ 編集者 : 住 寿美子 TEL 0577-34-7237 : 栗田 美由紀 TEL 0577-33-0179

表紙写真提供 : 小池 潜

イラスト : 小野木 三郎

印刷 : アドプリンター